



よ ば てんびょう 四つ葉点描

きょういくもくひょう 教育目標 「美しく生きる」



四日市市立中部中学校

令和5年11月22日

第17号

「ありありなんやっ」のクラスづくり

ぞく じゅ けん だん たい きょう ぎ 続・受験は団体競技



だい かい しんろせつめいかい かいさい さいだ
第2回の進路説明会が開催されました。それに先立ち
ねんせい がくしゅうかい
3年生にキャリア学習会を行いました。その時のタイトルが、
「受験は団体競技」です。今回の四つ葉点描は、その続
きになります。進路選択が間近に迫った3年生だけではなく、
1、2年生にも考えてほしい。個人の能力向上とクラスの雰囲気との関係の話です。



□ プロジェクト・アリストテレス

グーグルは長い間、「最高の人材を揃えること」がチームで動く上で欠かせない...ということを感じてきました。しかし、同じ会社の従業員なのに、「生産性」の高いグループがあれば低いグループもあることに、疑問を持ちました。そこで、生産性の高いグループが持つ共通点から成功の理由を見つけ出し、それを会社全体に広げようとしたのが、「プロジェクト・アリストテレス」という研究です。

この研究は、何百万ドルもの資金と約4年の歳月を費やして実施されました。分析は、統計、組織心理学、社会学など、様々なエキスパートを集めて行いました。「メンバーの親密具合」「外向的か、内向的か」「学歴」「グループの人数」「経験値」「今抱える仕事量」など、さまざまな角度から集めた大量のデータを解析して「生産性の高いグループ」の条件を見つけました。

その結果は...。そうです。皆さんの予想通りです。

常に成果をあげる = 生産性の高いグループの条件は、「優秀なメンバーが揃っているか」ではなく、「メンバー同士がいかに協力しあうか」にあったのです。つまり、**団体で競技しているグループ**だったので。



□ 日本の考え方と欧米の考え方の違い

Google のこの研究結果は、世界中に衝撃を与えました。日本で生活する私たちは、「和」が、グループに良い影響を与え、「和」のあるグループがよい結果を出すことは、なんとなく理解できます。しかし、「個」の力を高めることが組織の力を高める・・・と考える欧米の人たちには、意外な結果だったようです。

(この発表以降、欧米の企業では「禅」や「瞑想」といった日本の心の勉強が始まりました。)

□ 心理的安全性と「ありありなんやっ！」

「メンバー同士が協力できるグループ」は、心理的安全性が高いといわれます。

心理的安全性とは、他人の反応を気にしたり、自分の発言を恥ずかしいと感じたりすることなく、ありのままの自分で過ごせるような環境のことをいいます。

反対に心理的安全性が低いグループは、

「知らないんだ・・・と思われる不安」 「できないんだ・・・と思われる不安」

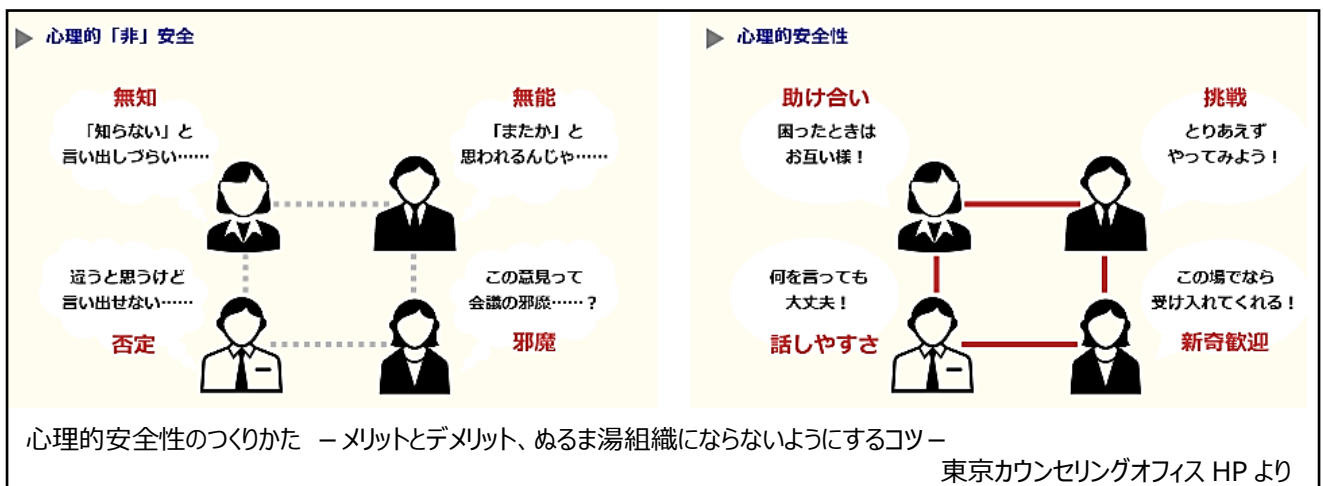
「邪魔をしている・・・と思われる不安」 「否定されるんじゃないか・・・という不安」

の4つの不安がグループの中にあるのだそうです。

では、心理的安全性が高い、協力し合うグループにするには、どうしたらいいのでしょうか。

それには「知らなくても大丈夫」「できなくても大丈夫」「同じじゃなくても大丈夫」「失敗しても大丈夫」

「変なこと言っても大丈夫」・・・といった安心感を、グループの中に創り出すことが必要なんですね。



9月初めに、皆さんに話をした「ありありなんやっ！」は、ここにつながっています。

心理的安全性が高いクラスであれば、「ありのまま」の自分が出せるし、きっと、「ありがとう」「なんとかなる」「やってみよう」の声がたくさん聴けるはずです。中部中学校が、心理的安全性の高い、みんなが協力できる学校、誰一人取り残さない学校であることは、結局、全員の能力を伸ばす一番の早道なのです。